

UNSCEAR推定甲状腺吸収線量と本格検査(検査3回目)における悪性ないし悪性疑い発見率との
関連(横断調査)

表1 震災時6～14歳の対象者におけるUNSCEAR推定甲状腺吸収線量(最大値)^{*1}と本格検査(検査3回目)における悪性ないし悪性疑い発見率との関連(横断調査)

震災時6～14歳, 線量最大値	20mGy未満	20-25mGy	25-30mGy	30mGy以上
女性(%)	49.4	50.3	49.7	49.9
一次検査受診時年齢(平均年齢)	15.3	14.9	14.9	15.5
検査年度受診者割合(%)				
2016年度	27.7	95.0	96.5	23.1
2017年度以降	72.3	5.0	3.5	76.9
検査間隔 ^{*2} (%)				
先行検査・本格検査(検査2回目)未受診	0.5	0.2	0.3	0.6
2年未満	62.4	61.7	31.9	23.9
2年以上2.5年未満	28.6	32.8	62.4	59.7
2.5年以上	8.4	5.2	5.4	15.8
悪性・悪性疑い発見数	8	5	2	12
発見率(10万人あたり)	22.3	18.0	7.9	47.2

*1:UNSCEAR 2013 Report, Annex A, ATTACHMENT C-16, Table C-16.2の推定甲状腺総吸収線量(Total)およびATTACHMENT C-18, Table C-18.5の推定甲状腺総吸収線量(Total dose)を使用。同一の市町村で複数の推定線量が提示されている場合は最大値を使用。各市町村別の被ばく線量を個人に当てはめた上で、被ばく線量を4群に分類。

*2:本格検査(検査3回目)一次検査日と、その前に受診した検査(先行検査または本格検査(検査2回目))の一次検査受診日との間隔。

※震災時県内居住者に限る。

※令和元年9月30日時点のデータによる。

表2 震災時15歳以上の対象者におけるUNSCEAR推定甲状腺吸収線量(最大値)^{*1}と本格検査(検査3回目)^{*2}における悪性ないし悪性疑い発見率との関連(横断調査)

震災時15歳以上, 線量最大値	10mGy未満	10-15mGy	15-20mGy	20mGy以上
女性(%)	63.3	60.2	58.5	58.0
一次検査受診時年齢(平均年齢)	22.8	22.3	22.4	22.2
検査年度受診者割合(%)				
2016年度	7.3	54.0	34.5	55.6
2017年度以降	92.7	46.0	65.5	44.4
検査間隔 ^{*3} (%)				
先行検査・本格検査(検査2回目)未受診	14.3	6.1	5.5	2.9
2年未満	46.6	45.5	36.0	27.8
2年以上2.5年未満	11.8	11.6	24.9	22.2
2.5年以上	27.3	36.8	33.5	47.1
悪性・悪性疑い発見数	0	1	2	0
発見率(10万人あたり)	0.0	36.1	60.2	0.0

*1:表1の脚注*1を参照。

*2:節目検査(平成4年度生まれ)を含む。

*3:本格検査(検査3回目)^{*2}一次検査日と、その前に受診した検査(先行検査または本格検査(検査2回目))の一次検査受診日との間隔。

※震災時県内居住者に限る。

※令和元年9月30日時点のデータによる。